

**小児神経専門研修カリキュラム**  
**(小児神経専門医のための到達目標・研修項目)**

2025年12月

改訂 第7版

**日本小児神経学会専門医委員会**

## 序

日本小児神経学会による認定医制度・専門医制度は、1991年に学会認定の小児神経認定医制度（2001年から小児神経専門医制度）が開始され、30年以上の歴史を重ねてきました。その間、日本専門医制評価・認定機構による認定を受けていたものの、同認定機構が2014年に現在の日本専門医機構へと発展的に解消し、新たな指針での専門医制度の整備を行うこととなったため、小児神経専門医制度は専門医機構認定ではない、いわば学会独自の資格制度の状態となっていました。およそ6年越しの対応の結果、2025年7月18日、ついに日本専門医機構のカテゴリー1のサブスペシャリティ領域「小児神経」の専門医制度として承認されました。

小児神経専門研修カリキュラム（小児神経専門医のための到達目標・研修項目）は従来から5年に1回の改訂を行うことになっており、2023年に改訂第7版の原案がほぼでき上がっていました。同年から日本専門医機構の審査が始まり2024年に見込まれていた承認の際に公開の予定でしたが、最終的に承認が2025年となったことから、今回、公開することとなったものです。

承認を受けるにあたり、日本専門医機構の指針に従って専門医制度を改定することとなり、専門研修、専門医資格の更新基準などに変更がありました（制度全体の詳細については「サブスペシャリティ領域専門研修制度整備基準 小児神経」（「整備基準」）に記載されています）。

研修についての大きな変更として、研修期間が従来は5年間（連動研修を認め、小児科専門研修の期間を含めることができる）であったものが、3年間（連動研修は認めず、小児科専門研修を修了してから3年間の小児神経専門研修）となる点があります。結果として従来5年間かけて研修していたものを最短3年間で修了することが可能となりました。一方、小児神経専門研修で経験すべき・学ぶべきことは膨大であることから、3年間では研修しきれないということも予想されます（研修は3年以上かけて修了しても問題ありません）。専攻医の先生方にはより積極的に小児神経学の経験を積み、知識を吸収することを心がけてください。研修施設統括責任者（旧・指導責任者）および指導医の先生方には専攻医がより多くの経験と知識を得られるよう、十分な配慮をお願い申し上げます。

前回の小児神経専門研修カリキュラム（小児神経専門医のための到達目標・研修項目）の改訂以降も、小児神経学の領域ではたくさんの疾患の原因解明・病態解明、遺伝子補充療法を含む新しい治療法の開発などが次々と続いています。今回の改訂では、新しい知見・治療方法、また疾患名称の変更などについてアップデートを行いました。研修にあたっては、研修施設での日々の臨床経験を積むことはもちろん、積極的に小児神経学会あるいは関連学会の学術集会、講習会、セミナーなどに参加するほか、日本小児神経学会刊行の「小児神経専門医テキスト」も併用するなどして知見を深めてください。

このカリキュラムで示す通り、現在の小児神経専門医制度で学ぶべき項目は広範囲で膨大なものであり、小児神経専門研修は必ずしも容易なものではないと思います。一方で、より様々な疾患をもつ患者さんの診療やご家族の悩みに対応することができる専門医資格ということでもあります。専攻医の先生方が広く深い専門研修を行い、小児神経学のスペシャリストとして臨床の現場や研究の場で活躍すること、さらに経験を積んで指導者として後進の先生方の教育者となること・目標となること、そして日本の小児神経学のさらなるレベル向上に貢献してくださることを期待します。

日本小児神経学会専門医委員会 委員長 後藤 知英  
(2025年12月 改訂第7版)

## 小児神経神経専門制度の理念と専門医像

小児神経専門医制度は、臨床小児神経学を専門とする優れた医師を養成し、小児神経学の進歩発展とその水準の向上をはかり、国民の健康と福祉に貢献することを目的とする。

小児神経専門医は、脳と脊髄(中枢神経系)、末梢神経、神経筋接合部、筋における機能的・器質的疾患、そして精神運動の発達を小児内科的に診療するスペシャリストである。

## 小児神経専門医の使命

小児神経専門医は、小児期の神経系機能障害をおこす疾患について質の高い専門医療を提供するだけでなく、小児科学領域の1専門領域である小児神経学の専門家として、それらの疾患の克服に寄与する。また、多くの介護や支援を必要とする重症心身障害、知的発達症、神経発達症などのある児(者)に、保健・福祉行政、教育関係者などと連携して、より良い療養体制、より良い療育の提供に寄与する。

## 到達目標・研修項目に含まれる領域と内容の概説

### I. 総論

1. 神経発達
2. 神経解剖・組織・機能
3. 小児神経医療倫理
4. 小児神経遺伝学
5. 小児神経医療経済
6. 診療
7. 小児神経症候学
8. 鑑別診断
9. 脳死
10. 神経学的検査
11. 小児神経疾患治療法・治療薬
12. 療育
13. 移行期医療・transition medicine
14. Evidence based medicine (EBM)
15. 医療安全

### II. 各論

1. 小児神経疾患の救急医学
2. 先天異常症候群
3. 神経発生異常
4. 先天代謝異常
5. 神経変性疾患（遺伝性神経疾患）
6. 神経皮膚症候群
7. 周産期神経系疾患
8. 神経系感染症
9. 自己免疫性神経疾患・感染後の神経障害
10. 神経系の外傷・その他
11. 中毒・栄養障害
12. 脳腫瘍
13. 脳血管障害
14. てんかんおよびその他の発作性疾患
15. 神経筋疾患
16. 脊髄疾患
17. 神経発達障害、行動および情緒障害
18. 睡眠障害
19. 頭痛
20. 自律神経障害
21. 小児内科疾患に伴う神経障害

## ○各研修項目の到達目標は、知識の到達目標レベル（A、B区分）と技能・経験の到達目標レベル（a、b、c区分）について

### 1) 知識の到達目標レベル

小児神経疾患の診療に関して、専門医に求められる臨床知識の程度を、次の2段階に区分する。

A：内容を熟知している。

B：内容の概略を知っている。

### 2) 技能・経験の到達レベル

a：主治医または担当医としての臨床経験を有し、独立して診療の判断ができる。

b：主治医または担当医としての臨床経験はないが、見学などで聞き見たことがあり、内容は概略を理解している。

c：経験の必要はないが、内容の概略を理解している。

なお、AおよびA/a区分については、「総論」はすべての経験が必要であり、「疾患各論」については、A/a領域の半分以上の経験が望ましいものとする。

## ○到達目標・研修項目、領域、大項目、中項目、小項目区分

大項目：研修項目の領域を示す。

中項目：その領域の中で研修すべき疾患群、疾患名を示す。

中項目だけで小項目がないものは、その項目について全般的な知識の習得を要し、病態、症候、病理、診断、検査、治療、療育、画像、予後判定などのすべての知識を含む。

小項目：中項目の内容の疾患名、中項目の疾患名の別名、特に注意すべき内容を小項目とする。

小項目に疾患名がある場合も、当該疾患の病態、症候、病理、診断、検査、治療、療育、画像、予後判定などのすべての知識を含むものとする。

中項目で( )で示してある疾患は、小項目の「 」に記してある。

## ○専門研修統括責任者および自己評価

別書類「研修チェックシート-I.総論」および「研修チェックシート-II.各論」を使用する。

記入方法はそれぞれのシート内の説明を確認のこと。研修状況の評価は毎年行うことが必要である。

## 到達目標・研修項目の内容と程度

### I. 総論

#### 1. 神経発達

神経系の発達は、基礎、臨床のすべてにわたり、小児神経専門医診療の最も重要な基盤である。神経系の発生、分化、発達の基本的知識、精神神経発達の臨床的評価についての知識と評価能力を有する。

#### 2. 神経解剖・組織・機能

小児神経疾患の診療に必要な神経解剖の知識を有し、診療に必要な病理組織の理解のための神経組織の知識を有する。神経学的局在診断に必要な神経解剖の知識を有する。

#### 3. 小児神経医療倫理

医療に必要な医療倫理を理解している。

インフォームド・コンセント（説明と納得）の概念を理解し、適切に実施できる。

個人情報の扱いが適切にできる。積極的医療の中断につき、十分に議論し、納得のいく適切な判断ができる。

遺伝子情報の取り扱いに関し、検査上の倫理的問題を理解している。

臨床研究の施行に関し、必要な最新の倫理規定を知っており、遵守して研究計画を立て、実施できる。

#### 4. 小児神経遺伝学

臨床遺伝学の基本的知識を有し、小児神経科領域の疾患について、研修項目疾患に関しては、遺伝性についての知識を有し、適切に説明できる。

研修項目である疾患について、新たな分子遺伝学的知見の検索ができ、高頻度疾患については、診断に必要な分子遺伝学的知識を有する。

遺伝子診断について、実施に際して適切な倫理的指針に準拠した診療ができ、結果の伝達については、適切なカウンセリングを提供できる医療体制の中で、十分な倫理的配慮のもとに実施できる。

#### 5. 小児神経医療経済

診療に必要な診療報酬、公費負担制度についての知識を有し、それらの申請に必要な診断書、書類を記載できる。

#### 6. 診療

専門医としてふさわしい言動、診療姿勢を示し、患者、家族に信頼感を醸成することができる。

小児を診察し、一般所見および神経学的所見を適切に記載、評価できる。

#### 7. 小児神経症候学

年齢に応じた小児の神経学的症候についての知識を有し、症候に基づいた局所診断、疾患診断ができる。

成人神経学における症候学についての知識を有し、小児神経疾患に関しても応用することにより、神経学的評価ができる。

#### 8. 鑑別診断

小児神経科外来で遭遇する主要な主訴に対する鑑別診断ができ、その鑑別のための検査計画ができる。

#### 9. 脳死

脳死についての現時点の問題点を理解し、最新の判定基準についての知識を有し、症候、検査を評価し、判定できる。小児についての問題点を理解し、現時点での最新の論点を理解し、判定できる。

## 10. 神経学的検査

小児神経科診療を遂行するために必要な検査につき、施行または評価できる。画像診断、生理学的検査など、適切な検査法を選択することができる。また、検査施行のための睡眠導入を安全に実施できる。

## 11. 小児神経疾患治療法・治療薬

小児神経科診療を遂行するために必要な基本的治療法について十分理解し、汎用される薬物につき、第一選択薬、第二選択薬、初回量、維持量、最高量、有害作用、禁忌、慎重投与についての知識を有し、適切に使用できる。

## 12. 療育

運動機能障害、発達障害、心身障害、その他の心身の機能上、あるいは発達上の問題に必要な理学療法、作業療法、言語療法を組み合わせた療育プログラムを理学療法士、作業療法士、言語聴覚士と連携して立案できる。経口摂取リハビリ、呼吸リハビリなど、特殊機能の療育について、必要性を判断し、計画できる。

## 13. 移行期医療・transition medicine

小児期に発症した小児神経科領域の疾患を持つ小児が青年期に達し、または成人した後も、診療を継続する場合には、年齢に合った生活指導、必要に応じて成人診療科専門医との連携を適切に行うことができる。

## 14. Evidence based medicine (EBM)

エビデンスに基づいた医療を提供するために、最新の情報を検索でき、エビデンスの質の判断ができる。

質の高いエビデンスがない場合の診療の選択を、適切な情報に基づいて判断でき、その場合も説明と合意に基づいた医療を提供できる。

## 15. 医療安全

安全な医療を実施するために必要な、医療体制を理解し、安全な医療を提供することができる。

医療施設で実施される医療安全のための講習会、研修会に出席し、常時適切かつ最新の情報に基づいた診療ができる。

## II. 各論

疾患診療については、どの領域であっても、

- ①診療に必要な既往歴、現病歴、家族歴などの情報を収集し、
- ②一般所見、神経学的所見を正確に得て、適切に記載し、
- ③臨床診断、画像診断、検査診断し、疾患名、原因、重症度、合併症、遺伝性、予後につき、診断し、
- ④患者および家族に適切な情報提供ができ、
- ⑤患者、家族の同意の下で適切なエビデンスに基づいた治療法、またはエビデンスの明確でない場合は、現時点で標準的な治療法に沿った診療計画を立てられ、
- ⑥治療を実施し、
- ⑦治療を適切に評価し、
- ⑧心身の発達を適切に評価し、
- ⑨診療および成長・発達に関わる生活上の相談・助言・支援し、
- ⑩生涯にわたる治療・療育の計画を立て、実施体制を提供できる

ことを基本的能力(到達目標レベルa)とする。エビデンスに基づいた治療法、標準的治療法がない場合には、最新の情報を検索し、それを適応するかどうかを適切に議論し、その適応につき倫理的配慮も含めた判断能力のもとに、患者、または家族に情報提供することが期待される。

診療においては、薬物の副作用に留意し、薬物療法の利点と問題点を熟知して、診療を進めること、および症状の変化に応じた治療、療育、養育について、小児神経専門医以外の医師、専門医、医師以外の医療職、教育職、行政などと必要な連携をとりながら、罹患児とその家族に必要な情報提供と、診療・療育、療養体制の提供を行う能力を有するものとする。

### 1. 小児神経疾患の救急医学

救急で小児神経科外来を受診する主要な疾患について適切な判断と処置ができる。

### 2. 先天異常症候群

先天異常症候群、染色体異常症の臨床診断ができ、疾患と合併症について、必要な医療を提供できる。

FISH法などで診断できる疾患について、最新の情報を検索でき、診療に利用できる。

予後、遺伝性について適切な情報を提供できる。

症候から先天異常を推定し、診断に必要な診療計画が立てられ、生涯にわたる治療計画が立てられ、適切に実施できる。

外科的病態など治療可能な病態について適切に判断し、治療・療育計画が立てられる。

### 3. 神経発生異常

神経系の形成障害に由来する疾患について、臨床症候から疑うことができ、必要な画像診断を選択し、てんかんなどの合併症も含めて、治療・療育計画が立てられ、実施できる。

### 4. 先天代謝異常

臨床症候、検査所見から先天代謝異常を疑い、診断に必要な検査計画を立て、評価できる。

保険診療外の特殊検査が必要な疾患は、実施施設など必要な情報を検索できる。

治療可能な疾患は、生涯にわたる治療計画を立てることができ、成長、発達に留意しながら、治療を進められる、または特殊治療実施施設について検索し、情報提供できる。

新生児マススクリーニングの結果を判断でき、必要な検査を実施し、治療計画を立て、実施できる。

## 5. 神経変性疾患（遺伝性神経疾患）

臨床症候、画像診断、生化学的検査、生理学的検査により、診断できる。

治療法につき、エビデンスがあるものは、治療計画が立てられる、また、特殊な治療の実施施設について適切な最新情報を提供できる。必要な療育計画を立てられる。

## 6. 神経皮膚症候群

臨床症候から疑い、必要な診断ができる。

てんかんなど高頻度の合併症につき、必要な検査、治療ができる。

## 7. 周産期神経系疾患

周産期の事象に原因を有する脳～末梢神経障害について、診断、評価、治療計画を立て、実施できる。

発達に応じた医療・療育計画を提供できる。

## 8. 神経系感染症

臨床症候、検査所見、画像診断から、原因、病態、重症度診断ができ、治療計画を立て、実施できる。

## 9. 自己免疫性神経疾患・感染後の神経障害

臨床症候、検査所見、画像診断から、原因、病態、重症度診断ができ、治療計画を立て、実施できる。

## 10. 神経系の外傷・その他

外傷の重症度、緊急性、責任部位に関し、局在診断を含めて臨床診断できる。

外科系専門医と連携して診療できる。

虐待に関して適切に診断し、対応できる。

事故防止、再発防止について適切に対応・指導できる。

## 11. 中毒・栄養障害

臨床症候、検査所見から診断し、治療できる。

## 12. 脳腫瘍

臨床症候から疑い、適切な画像診断ができ、部位、腫瘍の種類について判断し、外科的治療の適応に関して、脳神経外科専門医にコンサルトできる。

## 13. 脳血管障害

脳梗塞、脳出血、血管奇形および血管炎に随伴する血管障害に関して、年齢に応じた鑑別診断ができ、必要な画像検査ができ、手術適応について判断できる。

## 14. てんかんおよびその他の発作性疾患

国際抗てんかん連盟が策定した分類を理解し、てんかん病型、発作型につき、知識を有し、診断し、発作抑制のための短期的、長期的治療計画が立てられる。

薬物治療については、短期、長期の副作用を理解し、留意しつつ、長期にわたる治療を実施できる。

## 15. 神経筋疾患

筋疾患、神経筋接合部疾患、運動ニューロン疾患について、診断し、治療計画が立てられる。

## 16. 脊髄疾患

脊髄の炎症性疾患、免疫性疾患、血管障害、外傷、腫瘍性疾患につき、原因、局在、診断ができ、主たる疾患については、治療計画が立てられる。

## 17. 神経発達障害、行動および情緒障害

発達障害、心身症、心因性疾患、小児期の抑うつ、強迫、チック障害などにつき、適切に診断し、治療計画が立てられる。

## 18. 睡眠障害

睡眠の異常について、適切に診断し、治療計画が立てられる。

## 19. 頭痛

頭痛の国際分類を理解し、頭痛の原因、病型診断をするための診察、検査を施行し、診断できる。原因、病型に応じた治療ができる。

## 20. 自律神経障害

自律神経系の異常に基づく症候を理解し、診断できる。自律神経薬の薬理作用を理解し、使用できる。

## 21. 小児内科疾患に伴う神経障害

神経疾患以外の他領域小児疾患に合併、または続発する神経障害の病態を理解し、適切な早期診断、治療を実施できる。

## 大項目・中項目・小項目の詳細

### I. 総論

(研修評価の際は「研修チェックシート-I. 総論」を使用してください)

大項目	中項目	小項目	到達目標レベル
			A-B/a-c
<b>I 総論</b>			
<b>1. 神経発達</b>			
	脳の発生と分化	正常発生、髄鞘化	A
	運動発達		A
	社会性の発達		A
	言語発達		A
	視覚の発達		A
	聴覚の発達		A
	睡眠の発達		A
	情動の発達		A
<b>2. 神経解剖・組織・機能</b>			
	大脳		A
	小脳		A
	脳幹		A
	脊髄		A
	末梢神経		A
	骨格筋		A
	眼球		A
	聴覚器		A
<b>3. 小児神経医療倫理</b>			
	医療倫理の基本の理解		A
	患者中心の医療の実践		A
	守秘義務の理解、実施		A
	個人情報の保護の理解と実施		A
	インフォームド・コンセント(IC)の実施	通常の診療のICの実施	A
		遺伝学的検査のICの実施	A
	子どもの権利の理解と実践		A
	知る権利、知らない権利の理解と実践		A
	臨床研究の倫理規定の理解と遵守	ヒト生体試料、疫学、遺伝子	A
	発達予後不良疾患の医療倫理		A
	進行性神経疾患の医療倫理		A
<b>4. 小児神経遺伝学</b>			
	遺伝医学の根本原理		A/a
	遺伝医学総論	検索方法、発症要因、用語の理解、検査方法、機能、構造、発現	A/a
	染色体異常症	染色体検査、染色体の構造	A/a
	単一遺伝子疾患、多因子疾患、ミトコンドリア遺伝学		A/a
	遺伝性疾患の起こる機序、遺伝学的検査		A/a
	先天異常		A/a
	遺伝カウンセリング		A/a
<b>5. 小児神経医療経済</b>			
	主たる小児神経疾患の保険診療報酬点数を知っている		A
	保険診療の理解と実施		A
<b>5-1. 医療費補助制度</b>			
	未熟児養育医療		A
	育成医療		A
	小児慢性特定疾患治療研究事業		A
	難病医療費助成制度		A
	自立支援医療		A
	重症心身障害者医療費給付		A
<b>5-2. 障害児(者)医療</b>			
	身体障害者福祉法	等級、福祉措置	A
		身体障害者手帳の診断書作成	A/a
		15条の医師指定の理解	A
		19条の医師指定の理解	A
		身体障害者診断書・意見書(肢体不自由用)の作成	A/a
		身体障害者診断書・意見書(脳原性障害用)	A/a

		の作成	
	知的障害者福祉法	療育手帳発行に必要な診断書作成	A/a
	障害年金	肢体の障害、精神の障害の診断書作成	A/a
	特別児童扶養手当	診断書作成	A/a
	障害児福祉手当	診断書作成	A/a
	補装具支給	診断書作成	A/a
<b>6. 診療</b>			
6-1. 診療の基本			
	適切な清潔感ある外見		A
	適切な言葉使い		A
	真摯で共感を示す診療姿勢		A
	患者、家族の話を聴き理解する		A
6-2. 病歴聴取			
	子どもから病歴を聴取できる		A/a
	保護者から病歴を聴取できる		A/a
	主訴にあった病歴を聴ける		A/a
	主訴にあった家族歴を聴ける		A/a
	主訴にあった既往歴を聴ける		A/a
6-3. 診察			
6-3-1. 一般身体診察			
	小児科専門医レベルの診察ができる		A/a
6-3-2. 発達評価			
	運動発達の評価	粗大運動、微細運動、麻痺、筋トーンズ、shuffling baby	A/a
	精神発達の評価	発達年齢の評価	A/a
		知的発達、言語発達、情緒、社会性、行動の発達	A/a
	発達障害の評価	注意欠如・多動症、自閉スペクトラム症	A/a
	主要な精神症状の評価	内面的症状（抑うつ、不安強迫、幻覚）	A/a
		外在化症状（多動、衝動、攻撃、反抗）	A/a
	精神・心理検査が選択できる （対応年齢、評価特性が分かり、選択できる）	遠城寺式乳幼児分析的発達検査	A/a
		乳幼児精神発達質問紙（津守式）	A/a
		日本版デンバー式発達スクリーニング検査	A/b
		新版K式発達検査	A/b
		田中・ビネー知能検査	A/b
		WPPSI 知能検査	A/b
		ウェクスラー式知能検査	A/a
		ITPA 言語学習能力診断検査	B/b
		K-ABC 心理・教育アセスメントバッテリー	B/b
	適切なフォロー計画を立て、次回診察までの目標、療育計画が立てられる		A/a
6-3-3. 神経学的診察（年齢に応じた診察ができる）			
6-3-3-① 意識			
	意識障害の重症度評価	乳児、幼児以降	A/a
	無言性無動症		A/c
	失外套症候群		A/c
	持続性植物状態		A/b
	閉じ込め症候群		A/c
	随伴症候：眼球運動	共同偏視、斜偏視	A/a
		ocular bobbing、彷徨性眼球運動	A/c
		人形の目現象	A/a
6-3-3-② 反射			
	原始反射：脊髄反射	自動歩行	A/a
		陽性支持反射	A/a
		把握反射（手、足）	A/a
		引っ込め反射	A/a
		交差伸展反射	A/a
	原始反射：脊髄・橋レベルの反射	Moro 反射	A/a
		非対称性緊張性頸反射	A/a
		対称性緊張性頸反射	A/a
		緊張性迷路反射	A/a
	姿勢反射：中脳・視床レベル	頸性立ち直り反射	A/a
		視覚性立ち直り反射	A/a
		パラシュート反射	A/a
		Landau 反射	A/a
	摂食反射	探索反射 rooting reflex	A/a
		吸啜反射 sucking reflex	A/a
		嚥下反射	A/a

	深部腱反射	上腕三頭筋反射	A/a
		上腕二頭筋反射	A/a
		回内筋反射	A/a
		膝蓋腱反射	A/a
		アキレス腱反射	A/a
	表在反射	角膜反射	A/a
		咽頭反射	A/a
		腹壁反射	A/a
		挙拳筋反射	A/a
		肛門反射	A/a
	病的反射	Babinski 反射	A/a
		Hoffmann 反射	A/a
		Trömner 反射	A/a
		足間代	A/a
6-3-3-③ 感覚系			
生理	表在感覚路の理解		A/a
	深部感覚路の理解		A/a
診察	痛覚の診察		A/a
	触覚の診察		A/a
	温度覚の診察		A/a
	振動覚の診察		A/a
	位置覚の診察		A/a
検査	検査	末梢神経伝導検査	A/a
		体性知覚誘発電位	A/a
病態	末梢神経性感覚障害		A/b
	脊髄性感覚障害		A/b
	脳幹・視床・大脳性感覚障害		A/c
	心因性感覚障害		A/c
6-3-3-④ 脳神経系			
	脳神経 I (嗅神経)	嗅覚障害	A/a
	脳神経 II (視神経)	視力、視野、眼底	A/a
	脳神経 III、IV、VI (動眼神経、滑車神経、外転神経)	外眼筋麻痺、眼瞼下垂	A/a
	脳神経 V (三叉神経)	咬筋、顔面頭部前部の感覚	A/a
		瞳孔反射	A/a
	脳神経 VII (顔面神経)	味覚、涙腺、唾液腺	A/a
		顔面筋	A/a
		中枢性麻痺、末梢性麻痺	A/a
	脳神経 VIII (聴神経)	聴覚、平衡覚	A/a
	脳神経 IX (舌咽神経)	咽頭反射	A/a
	脳神経 X (迷走神経)	咽頭、喉頭、口蓋、嚥下	A/a
	脳神経 XI (副神経)	僧帽筋、胸鎖乳突筋	A/a
	脳神経 XII (舌下神経)	舌、線維束性収縮、萎縮	A/a
6-3-3-⑤ 小脳症候と診察			
	協働収縮異常 dyssynergia	指鼻試験	A/a
	測定異常 dysmetria	指鼻試験	A/a
		踵膝試験	A/a
		リバウンド・テスト	A/a
	dysdiadochokinesia	回内回外試験	A/a
	小脳性失調	失調性歩行	A/a
	眼振		A/a
	振戦	静止時振戦、動作時振戦	A/a
		姿勢振戦、企図振戦	A/a
	構音障害		A/a
6-3-3-⑥ 脊髄症候と診察			
	運動麻痺	痙性麻痺と弛緩性麻痺	A/a
	線維束性収縮		A/a
	解離性感覚障害		A/a
	手の症候	Aran-Duchenne の手	A/b
		脊髄手	A/b
	切断症候	Brown-Séquard 症候群	A/b
	高位診断		A/a
6-3-3-⑦ 末梢神経症候と診察			
	麻痺		A/a
	感覚障害	感覚鈍麻、異常感覚	A/a
	自律神経障害		A/a
	検査	末梢神経伝導検査、髄液筋電図 (半読できる)	A/a
6-3-3-⑧ 自律神経症候と診察			

	瞳孔症候		A/a
	発汗の異常		A/a
	膀胱直腸障害		A/a
	血管運動障害	起立性調節障害	A/a
6-3-3-⑨	筋症候と診察		
	筋の神経支配		A/a
	筋肥大の評価	片側肥大、仮性肥大	A/a
	筋萎縮の評価		A/a
	筋緊張亢進の評価		A/a
	筋緊張低下の評価	姿勢	A/a
		引き起こし反応	A/a
		loose shoulder	A/a
		scarf 徴候	A/a
		double folding	A/a
		heel-to-ear 徴候	A/a
	筋力の評価	徒手筋力テスト、握力測定	A/a
		問診、観察による評価	A/a
		動揺性歩行	A/a
		登攀性起立・Gowers 徴候	A/a
	易疲労性の評価		A/a
<b>7. 小児神経症候学</b>			
7-1. 脳神経領域			
	嗅覚	嗅覚脱失	B/b
	視力障害	皮質盲、心因性、脱髄、炎症	A/a
		網膜色素変性、先天性盲	A/a
	眼底	うっ血乳頭	A/a
		乳頭浮腫	B/b
		視神経萎縮	B/b
	視野障害	中心暗点、Mariotte の盲点	A/b
		閃輝暗点、半盲、視野狭窄	A/b
	眼球、眼瞼の異常	眼瞼下垂	A/a
		眼球陥凹、眼球突出	A/b
	複視	病巣診断、病因診断	A/b
	眼球共同運動障害 (注視麻痺)	Foville 症候群	B/b
		Parinaud 症候群	B/b
		随意性注視麻痺	A/b
		反射性注視麻痺	A/b
	眼振	種類、病巣	A/a
		異常眼球運動	A/a
	瞳孔	散瞳	A/a
		縮瞳	A/a
		左右不同	A/a
		Horner 徴候	B/b
		Argyll-Robertson 瞳孔	B/b
		Marcus-Gunn 現象	B/b
	角膜	Kayser-Fleischer 輪	B/b
	顔面麻痺	片麻痺、両麻痺、ミオパチー顔貌	A/a
		中枢性、末梢性	A/a
	聴力の異常	難聴	A/a
		耳鳴り	B/b
		聴覚過敏	B/b
	前庭症候	Romberg 徴候	A/a
		caloric test	A/a
		めまいの鑑別診断	A/a
	構音障害		A/a
	球麻痺	症候、診断、鑑別診断	A/a
	仮性球麻痺	症候、診断、鑑別診断	A/a
	髄膜刺激症候	項部硬直	A/a
		Kernig 徴候	A/a
		Brudzinski 徴候	A/a
7-2. 運動の異常			
	頭蓋内圧亢進	神経徴候、症状	A/a
	麻痺	片麻痺	A/a
		文麻痺	A/a
		両麻痺	A/a
		四肢麻痺	A/a
		単麻痺	A/a
	錐体路障害	症候、徴候	A/a

		Wernicke-Mann 肢位	A/a		
異常運動		振戦	A/a		
		ヒョレア	A/a		
		パリスム	A/a		
		ジストニア	A/a		
		痙性斜頸	A/a		
		アテトーゼ	A/b		
		ミオクローヌス	A/a		
		チック	A/a		
		線維性収縮	A/a		
		線維束性収縮	A/a		
		失調		脊髄後索性	A/c
				小脳性	A/a
前庭性	A/b				
7-3. 感覚の異常					
異常感覚			A/a		
		疼痛	A/a		
		感覚障害	A/a		
7-4. 膀胱直腸障害					
排尿の異常		排尿困難	A/a		
		頻尿	A/a		
		緊張性膀胱	A/a		
		弛緩性膀胱	A/a		
		尿閉、失禁	A/a		
排便の異常		便秘、便失禁	A/a		
8. 鑑別診断					
意識障害		外因性、内因性	A/a		
		非けいれん性てんかん重積	A/a		
けいれん/けいれん重積		年齢別疾患	A/a		
てんかん発作の分類		焦点意識保持発作	A/a		
		焦点意識減損発作	A/a		
		欠神発作	A/a		
		非定型欠神発作	A/a		
		ミオクローニー発作	A/a		
		間代発作	A/a		
		強直発作	A/a		
		強直間代発作	A/a		
		脱力発作	A/a		
		分類不能発作	A/a		
		てんかん性スバズム	A/a		
		てんかん類似疾患		Sandifer 症候群、情動脱力発作、心因性非てんかん発作	A/a
髄膜炎刺激症状		髄膜炎、くも膜下出血	A/a		
頭囲の異常、頭部変形		小頭症、大頭症、縫合早期癒合	A/a		
知的発達症/知的能力障害		最重度、重度、中等度、軽度	A/a		
身体的特徴を伴う知的発達症		小奇形、特有の顔貌、低身長	A/a		
知的退行		神経変性疾患、発達性てんかん性崩壊症	A/a		
言語発達遅滞		難聴、自閉スペクトラム症	A/a		
フロッピーインファント		Prader-Willi 症候群、脊髄性筋萎縮症 I 型	A/a		
運動発達遅滞		shuffling baby、運動失調	A/a		
歩行障害・歩容の異常		痙性、失調性、動揺性、鶏歩、跛行、突進歩行	A/a		
不随意運動		振戦、ヒョレア、パリスム、アテトーゼ、ジストニア、ジスキネジア、ミオクローヌス、ミオキミア	A/a		
筋力低下		近位筋優位、遠位筋優位	A/a		
運動失調		小脳性、前庭性、脊髄性、大脳性	A/a		
嚥下障害		球麻痺、仮性球麻痺	A/a		
易疲労性		甲状腺機能低下症、重症筋無力症	A/a		
眼球運動異常、眼瞼下垂		斜視、眼球運動神経麻痺、眼振、眼球運動失行	A/a		
頭痛		一次性、二次性	A/a		
問題行動・適応障害		知的発達症/知的能力障害、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症、反応性愛着障害、転換性障害、不安障害	A/a		
9. 脳死					
判定倫理			A		
法的脳死判定			A		

	虐待の鑑別の重要性		A
	小児の脳死に関する問題の理解		A
	小児の法的脳死判定	平坦脳波	A/b
<b>10. 神経学的検査</b>			
10-1. 脳脊髄液検査			
	腰椎穿刺	適応と禁忌、手技	A/a
	頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア	症状	A/a
	脳脊髄液総蛋白	年齢に応じた基準値	A/a
	脳脊髄液生化学	年齢に応じた基準値	A/a
	病原菌の検出・同定	染色、ウイルス抗体、PCR	A/a
	神経疾患における髄液の特徴	髄膜炎、脳炎、免疫性疾患、腫瘍	A/a
10-2. 神経放射線学的検査			
	頭部単純X線	頭蓋の正常X線解剖	A/a
		形態の異常、縫合異常	A/a
		骨折、骨破壊、骨過形成	A/a
		トルコ鞍の拡大、破壊	A/a
		副鼻腔	A/a
	脊椎単純X線	正常X線解剖	A/a
		頭蓋底陥入症、環軸椎脱臼	A/a
		脊椎骨奇形、変形	A/a
	頭部単純CT	脳造影と各部位の同定	A/a
		年齢に応じた白質の評価	A/a
		形態異常の評価	A/a
		石灰化、出血、浮腫、梗塞	A/a
		占拠性病変	A/a
	造影頭部CT	増強効果	A/a
		頭部3次元造影CTによる脳血管病変の検索	A/b
	骨格筋CT	骨格筋の同定	A/a
		筋線維変性病変	A/b
	頭部MRI	T1強調画像：特徴、評価	A/a
		T2強調画像：特徴、評価	A/a
		FLAIR像	A/a
		拡散強調画像 (DWI)	A/a
		Gd-DTPA 造影検査	A/a
		3D-MRI	A/a
		MRA	A/a
		MRS	B/b
		アーチファクト	A/a
	脊髄MRI	T1強調画像：特徴、評価	A/a
		T2強調画像：特徴、評価	A/a
		MR myelography	B/b
	脳血管の評価	DSA、MRA、CTA	A/b
	脳血流・脳代謝の評価	SPECT、ポジトロンエミッションCT (PET)	B/b
10-3. 生理学的検査			
10-3-1 脳波			
	脳波計を操作して記録ができる	電極、導出法、記録法	A/a
	正常の脳波の評価と報告書作成	アーチファクト、time constant	A/a
		新生児の脳波	A/a
		小児の脳波	A/a
		成人の脳波	A/a
		睡眠脳波	A/a
		脳波の発達	A/a
	異常波形の評価と報告書作成	鋭波、棘波、棘徐波	A/a
		意識障害、suppression-burst、PSD、三相波など	A/a
10-3-2 誘発電位			
	適応、記録法 (自分でできる)		A/a
	ABR		A/a
	SSEP		A/a
	VEP		A/b
	事象関連電位 (P300 など)		B/c
10-3-3 末梢神経伝導検査			
	適応、記録法 (自分でできる)		A/a
	運動神経伝導検査		A/a
	感覚神経伝導検査		A/b
	M波、H波、F波の記録		A/b
	神経反復刺激 (waning、waxing)		A/b
10-3-4 磁気刺激による神経生理検査			
			—

		皮質脊髄路	B/c
10-3-5 針筋電図			
	適応		A/b
	波形、線維性収縮電位		A/b
	ミオトニア放電		A/b
	筋原性所見		A/b
	神経原性所見		A/b
10-3-6 表面筋電図			—
	記録、不随意運動の解析		A/a
10-3-7 神経耳科的検査			
	オーディオメトリーの適応と評価		B/c
10-3-8 神経眼科的検査			
	視力検査：適応		A/a
	視野検査：適応		A/a
	網膜電図(ERG)：適応と検査		A/c
	眼底検査：適応、評価		A/a
10-3-9 自律神経機能検査			
	起立試験、Tilt 試験、発汗試験		B/b
	膀胱内圧測定		B/c
10-3-10 脳磁図			
	適応と評価		B/c
10-4. 病理学的検査			
	筋生検	適応	A/a
		染色法	A/b
		筋線維タイプ	A/b
		疾患特異的所見	A/b
	皮膚生検	適応	A/b
		疾患特異的封入体	A/b
	神経病理	染色法	A/b
		主要疾患特異的所見	A/b
10-5. 遺伝子・染色体検査			
	染色体検査	適応、ICの取り方	A/a
		検査法、選択、適応	A/a
		結果の説明	A/a
	染色体FISH法	適応、ICの取り方	A/a
		結果の説明	A/a
	マイクロアレイ染色体検査	適応、ICの取り方	B/b
		結果の説明	B/b
	遺伝子検査	方法、精度、特異度の理解	A/a
		適応、ICの取り方	A/a
		結果の理解、説明	A/a
		倫理、カウンセリング	A/a
<b>11. 小児神経疾患治療法・治療薬</b>			
11-1. 基本的治療法			
	輸液療法	脱水、脳浮腫	A/a
	呼吸管理	人工呼吸器管理	A/a
	循環管理		A/a
	経管栄養法		A/a
	食事療法	必要カロリー、ケトン食	A/a
	医学的リハビリテーション	PT、OT、ST、適切な処方	A/a
	重症心身障害児(者)医学	胃食道逆流症(GERD)、呼吸、嚥下	A/a
	在宅療養指導		A/a
	インフォームド・コンセント	同意、プライバシーの保護	A/a
11-2. 治療薬と治療法			
	頭蓋内圧降下薬	脳浮腫	A/a
	線溶療法、抗血小板薬、抗凝固薬	DIC	A/a
	抗けいれん薬・抗てんかん薬	初回量、維持量、中毒量	A/a
		血中濃度、薬物動態	A/a
		主たる副作用、禁忌	A/a
		ACTH療法	A/a
	抗菌薬、抗ウイルス薬		A/a
	免疫療法	副腎皮質ステロイド	A/a
		ステロイドパルス療法	A/a
		免疫グロブリン大量静注療法	A/a
		血漿交換療法/血漿吸着療法	B/c
	酵素補充療法	Pompe病、Gaucher病、Fabry病、ムコ多糖症(Hunter病、Hurler病、Maroteaux-Lamy症候群)	A/b

	神経筋接合部作用薬	クリーゼ	A/b
	鎮痛薬	適応、禁忌	A/a
	睡眠・鎮静薬	薬用量、副作用、適応、禁忌	A/a
	抗不安薬	薬用量、副作用、適応、禁忌	A/a
	抗精神病薬	薬用量、副作用、適応、禁忌	A/a
	抗うつ薬	薬用量、副作用、適応、禁忌	A/a
	精神刺激薬	薬用量、副作用、適応、禁忌	A/a
	筋弛緩薬	薬用量、副作用、適応、禁忌	A/a
	自律神経系作用薬	薬用量、副作用、適応、禁忌	A/a
	アンチセンス核種医薬品	脊髄性筋萎縮症, Duchenne 型筋ジストロフィー	A/b
	遺伝子治療	AADC 欠損症	A/b
<b>12. 療育</b>			
	運動障害に必要な療育	計画、評価	A/a
	発達障害に必要な療育	計画、評価	A/a
	他職種の仕事の理解と連携	PT、OT、ST	A/a
	重症心身障害児（者）の療育	経口摂取、呼吸、運動	A/a
<b>13. 移行期医療・Transition medicine</b>			
	青年期、成人期の医療	医療、生活指導	A/a
		妊娠・出産の管理の連携医療	A/a
		成人専門医との連携	A/a
<b>14. Evidence based medicine (EBM)</b>			
	EBM 情報の求め方の実践		A/a
	EBM 情報の質の判断と利用の実践		A/a
	エビデンスのない医療の実践の判断		A/a
	エビデンスのない医療の説明と合意		A/a
<b>15. 医療安全</b>			
	医療安全に関する体制の理解		A/a
	事故防止のシステムの理解と実践		A/a
	事故発生時の対応の理解と実践		A/a
	院内感染対策の理解と実践		A/a
	医療安全に関する講習の受講、または学習		A/a

## 大項目・中項目・小項目の詳細

### II. 各論

(研修評価の際は「研修チェックシート-II. 各論」を使用してください)

大項目	中項目	小項目	到達目標レベル
			A-B/a-c
<b>II. 各論：病態、症候、病理、診断、検査、治療、遺伝、療育</b>			
<b>1. 小児神経疾患の救急医学</b>			
	けいれん (けいれん重積)	てんかん、脳炎、髄膜炎、脳血管障害、下痢、熱性けいれん(熱性発作)、脱水、代謝異常症	A/a
	意識障害	脳炎、脳症、ADEM、脳血管障害、代謝性脳障害	A/a
	頭痛、嘔吐	脳腫瘍、髄膜炎、偏頭痛、周期性嘔吐症	A/a
	急性運動麻痺	もやもや病、Guillain-Barre 症候群、急性横断性脊髄炎、前脊髄動脈症候群、周期性四肢麻痺、Bell 麻痺	A/a
	急性失調	急性小脳失調症、小脳炎	A/a
	事故	頭部外傷	A/a
		溺水・溢頸などによる低酸素脳症	A/b
	神経疾患の急性増悪	重症筋無力症クリーゼ	A/b
		重症心身障害児、先天代謝異常・神経変性疾患など慢性疾患患児の急性増悪 (感染、誤嚥性肺炎、GER、悪性症候群)	A/a
<b>2. 先天異常症候群</b>			
2-1. 常染色体異常			
	Down 症候群		A/a
	18 トリソミー		A/a
	13 トリソミー		A/b
	5p-症候群		A/b
	18q-症候群		A/b
2-2. 性染色体異常			
	Klinefelter 症候群		A/b
	XYY		A/b
	Turner 症候群		A/a
2-3. 染色体欠失症候群			
	Prader-Willi 症候群		A/a
	Angelman 症候群		A/b
	Williams 症候群		A/b
	22q11.2 欠失症候群		A/b
	Miller-Dieker 症候群		B/c
	Smith-Magenis 症候群		B/c
	サブテロメア微細欠失症候群		B/c
2-4. 神経症状を伴う「奇形症候群」			
	Sotos 症候群		A/a
	Weaver 症候群		B/c
	Noonan 症候群		A/b
	Rubinstein-Taybi 症候群		A/b
	Brachmann-de Lange 症候群	(Cornelia de Lange 症候群)	A/b
	Coffin-Lowry 症候群		B/c
	Kabuki 症候群		B/c
	Beckwith-Wiedemann 症候群		B/c
	Laurence-Moon 症候群		B/c
	Bardet-Biedl 症候群		B/c
<b>3. 神経発生異常</b>			
3-1. 神経管閉鎖不全 neurulation			
	無脳症		A/c
	開放性二分脊椎 (脊髄嚢膜嚢)	髄膜嚢	A/a
	潜在性 (閉鎖性) 二分脊椎	脊髄嚢膜力重、皮膚洞	A/a
	脳嚢 encephalocele		A/b
	Chiari 奇形	Chiari I 型奇形、Chiari II 型奇形	A/a
	脊髄空洞症	二分脊椎、Chiari 奇形	A/a
3-2. 小脳の発生異常			
	小脳底形成		A/a
	小脳虫部底形成		A/a
	Joubert 症候群		A/b
	Dandy-Walker 奇形		A/b

	Dekaban-Arima 症候群	ネフロン癆	B/c
3-3. 頭蓋底部～上部頸椎の形成異常			
	platybasia		A/b
	Klippel-Feil 症候群		A/b
	鎖骨頭蓋異骨症		B/c
3-4. 終脳形成異常			
	全前脳包症	alobar, semilobar, lobar type	A/b
	septo-optic dysplasia		A/c
	嗅神経無形成	Kallmann 症候群	B/c
3-5. 神経細胞の分裂障害			
	真性小頭症		A/a
3-6. 神経細胞の移動障害			
	裂脳症 schizencephaly		A/c
	古典型裂脳症 (I 型)		A/a
	丸石様裂脳症 (II 型)	Walker-Warburg 症候群	B/c
		筋-眼-脳症候群	B/c
		福山型先天性筋ジストロフィー	A/a
	多小脳回 polymicrogyria	両側傍シルビウス裂多小脳回	A/b
		先天性サイトメガロウイルス感染症	A/a
	二重皮質 double cortex	band heterotopia	A/c
	両側脳室周囲結節状ヘテロトピア		A/c
	脳梁欠損症	半球間脂肪腫、半球間くも膜のう胞	A/a
		Aicardi 症候群	A/b
3-7. 縫合早期癒合症			
	非症候群性	舟状頭蓋(矢状縫合早期癒合症)、 短頭蓋(両側冠状縫合早期癒合症)、 斜頭蓋(一側前頭縫合早期癒合症)、 三角頭蓋(前頭縫合早期癒合症)、 尖頭蓋(複数縫合早期癒合症)	A/b
	症候群性	Apert 症候群、Crouzon 症候群、Pfeiffer 症候群 (クローバー様頭蓋症候群)	A/b
3-8. 大頭症			
	巨脳症		A/a
	片側巨脳症		A/b
	水頭症	中脳水道狭窄、Dandy-Walker 症候群、全前脳包症、脊髄髄膜瘤、脳瘤 (二分頭蓋)、X 連鎖性遺伝性水頭症	A/a
	hydranencephaly		A/b
3-9. 脳神経の先天的異常			
	Marcus-Gunn 症候群		B/c
	Duane 症候群		B/c
	先天性中枢性低換気症候群	<i>PHOX 2B</i>	A/c
<b>4. 先天代謝異常</b>			
4-1. アミノ酸代謝異常			
	フェニルケトン尿症 (PKU)	母性 PKU	A/b
	その他の高フェニルアラニン血症		B/c
	チロシン血症		B/c
	メープルシロップ尿症		B/c
	非ケトン性高グリシン血症		B/c
	アルギノコハク酸尿症		B/c
	シトルリン血症		B/c
	シトルリン血症 II 型		B/c
	オルニチントランスカルバミラーゼ (OTC) 欠損症		B/c
	カルバミルリン酸合成酵素 (CPS) 欠損症		B/c
	高オルニチン・高アンモニア・高ホモシトルリン血症		B/c
	ホモシチン尿症		B/c
	メチレンテトラヒドロ葉酸還元酵素欠損症		B/c
	Hartnup 病		B/c
	Lowe 症候群	Fanconi 症候群	B/c
	クレアチントランスポーター欠損症		B/c
	クレアチン欠損症		B/c
4-2. 有機酸代謝異常			
	プロピオン酸血症		B/c
	メチルマロン酸血症		B/c
	イソ吉草酸血症		B/c
	多種カルボキラーゼ欠損症		B/c
	ピオチニダーゼ欠損症		B/c

	グルタル酸尿症Ⅰ型		B/c
	グルタル酸尿症Ⅱ型		B/c
4-3. リソゾーム病			
	糖原病Ⅱ型 (Pompe 病)		A/c
	Danon 病		B/c
	フコシドーシス		B/c
	マンノシドーシス		B/c
	シアリドーシス		B/c
	ガラクトシアリドーシス		B/c
	GM <sub>1</sub> ガングリオシドーシス		B/c
	GM <sub>2</sub> ガングリオシドーシス		B/c
	Gaucher 病	Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型	B/c
	Fabry 病		A/c
	Niemann-Pick 病 A型、B型		B/c
	Niemann-Pick 病 C型		B/c
	Krabbe 病	グロボイド細胞白質ジストロフィー	B/c
	異染性白質ジストロフィー (MLD)		B/c
	Farber 病		B/c
	シスチノーシス		B/c
	シアル酸蓄積症	Salla 病	B/c
4-4. ムコ多糖異常症			
	Hurler 症候群(MPS Ⅰ)		B/c
	Hunter 症候群(MPS Ⅱ)		B/c
	Sanfilippo 病(MPS Ⅲ)		B/c
	Morquio 症候群(MPS Ⅳ)		B/c
	I-細胞病 (ML Ⅱ)		B/c
4-5. 神経セロイドリポフスチン沈着症(NCL) (Batten 病)			
	先天型NCL (cathepsin D)		B/c
	乳児型NCL (CLN1)	Santavuori 型	B/c
	遅発乳児型NCL (CLN2)	Jansky-Bielschowsky 型	B/c
	若年型NCL (CLN3)	Spielmeier-Vogt 型	B/c
	成人型NCL (CLN4)	Kufs 型	B/c
4-6. 脂質代謝異常症			
	Wolman 病		B/c
	cerebrotendinous xanthomatosis		B/c
	Smith-Lemli-Opitz 症候群		B/c
4-7. ペルオキシゾーム病			
	Zellweger 症候群		B/c
	新生児副腎白質変性症		B/c
	Refsum 病		B/c
	副腎白質ジストロフィー		B/c
4-8. 糖質代謝異常			
	ガラクトース血症		B/c
	糖原病Ⅰ型 (von Gierke 病)		B/c
	(糖原病Ⅱ型)	「4-3. リソゾーム病」に分類	
	糖原病Ⅲ型 (Forbes 病)		B/c
	糖原病Ⅴ型 (McArdle 病)		B/c
	糖原病Ⅵ型(垂井病)		B/c
	グルコーストランスポーター1欠損症		B/c
4-9. 糖鎖形成異常 (グルコシル化異常症)			
	先天性グルコシル化異常症Ⅰ型 (CDG-I)		B/c
	先天性グルコシル化異常症Ⅱ型 (CDG-II)		B/c
	(Walker-Warburg 症候群)	「3-6. 神経細胞の移動障害」に分類	
	(筋・目・脳症候群)	「3-6. 神経細胞の移動障害」に分類	
	(福山型先天性筋ジストロフィー)	「3-6. 神経細胞の移動障害」に分類	
4-10. 核酸代謝異常			
	Lesch-Nyhan 病		B/c
4-11. 金属代謝異常			
	Wilson 病		B/b
	Menkes 病		B/c
4-12. ヘム合成異常			
	遺伝性ポルフィリア	末梢神経障害	B/c
4-13. ミトコンドリア異常症			
	ピルビン酸代謝異常	ピルビン酸脱炭酸酵素欠損症	B/c
		ピルビン酸脱水素酵素複合体欠損症	B/c
	脂肪酸代謝異常	カルニチン欠損症	B/c
		カルニチンパルミトイル転移酵素欠損症	B/c
	電子伝達系異常	MELAS	A/a

		MERRF	B/c
		Kearns-Sayre 症候群	B/c
		慢性進行性外眼筋麻痺	B/c
		Leigh 症候群	A/a
		Leber 家族性視神経萎縮症	B/c
	その他	ミトコンドリア DNA 欠失症候群	B/c
4-14. メチル基転移反応・含硫アミノ酸代謝異常症			
	モリブデン補酵素欠損症 (ホモシスチン尿症)		B/c
	(メチレンテトラヒドロ葉酸還元酵素欠損症)	「4-1. アミノ酸代謝異常」に分類	
5. 神経変性疾患 (遺伝性神経疾患)			
5-1. トリプレットリピート病			
	Huntington 病	<i>HTT</i>	A/c
	Machado-Joseph 病	<i>SCA3</i>	B/c
	歯状核赤核淡着球レイ体萎縮症 (DRPLA)	<i>ATNI</i>	A/b
	脆弱 X 症候群 (筋強直性ジストロフィー)		A/b
		「15-5. 筋強直性疾患」に分類	
5-2. 遺伝性ジストニア			
	変形性筋ジストニー ( <i>DYT1</i> )		A/b
	瀬川病 ( <i>DYT5a</i> )	GTP cyclohydrolase 欠損	A/b
	( <i>DYT5b</i> )	tyrosine hydrolase 欠損	A/b
	発作性ジストニア性舞蹈病アテトーゼ ( <i>DYT8</i> )		B/c
	発作性運動誘発性舞蹈病アテトーゼ ( <i>DYT10</i> )		A/b
	小児交互性片麻痺		A/c
5-3. 基底核変性疾患			
	Hallervorden-Spatz 病	パントテン酸キナーゼ関連神経変性症	A/c
	若年性パーキンソン病		B/c
	乳児両側線条体壊死		B/c
	Fahr 病		B/c
	副甲状腺機能低下症		A/c
	Tourette 症候群	Gilles de la Tourette 症候群	A/b
5-4. 小脳、脊髄変性疾患			
	Friedreich 病	トリプレットリピート	A/c
	脊髄小脳変性症 (SCAs)	「5-1. トリプレットリピート病」に記載した DRPLA、Machado-Joseph 病 ( <i>SCA3</i> ) 以外のオリープ・橋・小脳変性症	B/c
	家族性痙性対麻痺 (FSP)	SPGs、純粋型、複合型	A/b
	毛細血管拡張性失調症	Louis-Bar 症候群	A/c
	眼球運動失行と低アルブミン血症を伴う早発型失調症	aprataxin	B/c
	眼球運動失行を伴う失調症	senataxin	B/c
	Marinesco-Sjögren 症候群		B/c
5-5. 末梢神経変性疾患			
	Charcot-Marie-Tooth 病	CMT1A ( <i>PMP-22</i> )、CMT1B ( <i>P0</i> )	A/a
	Déjérine-Sottas 病 (家族性自律神経障害)	CMT3	B/c
	巨大軸索ニューロパチー (GAN)		B/c
	乳児神経軸索ジストロフィー (INAD)	Seiterberger 病	B/c
5-6. 灰白質変性疾患			
	Rett 症候群 (Menkes 病)	<i>MeCP2</i>	A/a
	Alpers 病 (Batten 病)		B/c
		「4-5. 神経セロイドリポフスチン沈着症」に分類	
5-7. 白質変性疾患			
	Aicardi-Goutières 症候群		B/c
	Pelizaeus-Merzbacher 病		A/b
	Alexander 病		A/c
	Canavan 病	MRS (N-acetylaspartate 高値)	A/c
	皮質下嚢胞を伴う巨脳性白質脳症	megalencephalic leukoencephalopathy with subcortical cysts (MLC1)	A/c
	基底核と小脳萎縮を伴う白質脳症 (HABC)		A/c
	vanishing white matter 病 (白質喪失病)	childhood ataxia with cerebral hypomyelination	A/c
	Sjögren-Larsson 症候群 (cerebrotendinous xanthomatosis)		B/c
		「4-6. 脂質代謝異常症」に分類	
	POL3 関連白質ジストロフィー	4H 症候群	A/c
	CADASIL (メロシン欠損症)		B/c
		「15-4. 筋ジストロフィー」に分類	

	(Krabbe 病)	「4-3. リンゾーム病」に分類	
	(異染性白質ジストロフィー)	「4-3. リンゾーム病」に分類	
5-8. 進行性ミオクローヌスてんかん			
	Lafora 病		B/c
	Unverricht-Lundborg 病		B/c
5-9. DNA 修復異常			
	色素性乾皮症		A/b
	Cockayne 症候群		A/b
	(毛細血管拡張性失調症)	「5-4. 小脳、脊髄変性疾患」に分類	A/c
<b>6. 神経皮膚症候群</b>			
	神経線維腫症 I 型	von Recklinghausen 病	A/a
	神経線維腫症 II 型		B/c
	結節性硬化症		A/a
	Sturge-Weber 病		A/b
	von Hippel-Lindau 病		B/c
	神経皮膚黒色症	neurocutaneous melanosis	B/c
	Klippel-Trénaunay-Weber 症候群		B/c
	色素性失調症	Bloch-Sulzberger 症候群	B/c
	低メラニン症-伊藤	hypomelanosis of Ito	B/c
	線状皮脂腺母斑症	linear sebaceous nevus	B/c
<b>7. 周産期神経系疾患</b>			
7-1. 胎内感染症			
	先天性サイトメガロウイルス感染症		A/a
	先天性トキソプラズマ感染症		A/b
	単純ヘルペスウイルス感染症		A/c
	先天性梅毒		A/c
	先天性風疹症候群		A/b
	HIV 感染症		A/c
7-2. 外傷			
	頭血腫		A/a
	帽状腱膜下血腫		A/b
	頭蓋骨骨折		A/b
7-3. 低酸素性虚血性脳症 hypoxic ischemic encephalopathy (HIE)			
	正期産型低酸素性虚血性脳症		A/a
	脳室周囲白質軟化症 (PVL)		A/a
	cystic encephalomalacia		A/a
	脳室内出血	germinal matrix hemorrhage	A/a
	parasagittal cerebral injury 傍矢状脳損傷	ulegyria	A/b
	基底核壊死		A/b
	脳幹被蓋部梗塞	Möbius 症候群	A/a
	孔脳症		A/a
7-4. 新生児発作			
	低カルシウム血症		A/a
	低血糖		A/a
	仮死		A/a
	先天代謝異常	ビタミン B6 依存症	A/b
	良性新生児けいれん		A/b
7-5. 脳性麻痺			
	脳性麻痺	四肢麻痺、両麻痺、対麻痺、片麻痺、重複片麻痺、単麻痺 痙直型、アテトーゼ型、低緊張型、失調型、混合型	A/a
7-6. 末梢神経障害			
	顔面神経障害	口角下制筋欠損症	A/b
	腕神経叢麻痺	Erb-Duchenne 麻痺 Klumpke 麻痺	A/b A/b
	斜頸		A/b
<b>8. 神経系感染症</b>			
8-1. 髄膜炎			
	細菌性髄膜炎		A/a
	髄膜炎合併症		A/a
	敗血症性ショック		A/b
	ウイルス性髄膜炎		A/a
	結核性髄膜炎		A/b
	無菌性髄膜炎		A/a
	真菌性髄膜炎	クリプトコッカス症	B/c
8-2. 膿瘍			
	脳膿瘍		A/a

	頭蓋内膿瘍	硬膜外膿瘍、硬膜下膿瘍	B/b
8-3. 急性脳炎・脳症・脊髄炎			
	単純ヘルペスウイルス脳炎		A/b
	新生児単純ヘルペスウイルス脳炎		A/b
	ウイルス性脳炎（脳神経炎、小脳炎、脊髄炎を含む）	エンテロウイルス属ウイルス、麻疹、風疹、ムンプスウイルス、サイトメガロウイルス、Epstein-Barr ウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルス、HHV-6, 7	A/c
	日本脳炎		A/c
	ロタウイルス脳炎	小脳炎	A/a
	リステリア感染症	小脳炎・脳神経炎	B/c
	マイコプラズマ感染症		B/c
	HIV 脳症		B/c
	インフルエンザ脳症		A/a
	HHV6 (HHV7) 脳症		A/b
	急性壊死性脳症 (ANE)		A/b
	出血性ショック脳症症候群 (HSES)		A/b
	可逆性脳梁膨大部病変を有する軽症脳炎・脳症 (MERS)		A/a
	けいれん重積型(二相性)急性脳症 (AESD)		A/a
	Reye 症候群		A/c
	辺縁系脳炎	非ヘルペス性辺縁系脳炎、NMDAR	A/c
8-4. 基礎疾患に伴う脳症			
	溶血性尿毒症性脳症 (HUS)	ペロ毒素	A/b
	血球貪食症候群 (HPS)		B/c
	肝性脳症		B/c
8-5. 遅発性ウイルス感染症			
	亜急性硬化性全脳炎		A/b
	Creutzfeldt-Jakob 病	プリオン	B/c
<b>9. 自己免疫性神経疾患・感染後の神経障害</b>			
9-1. 中枢神経系の脱髄性疾患			
	多発性硬化症		A/b
	Devic 病 視神経脊髄炎 (NMO)	抗 AQP4 抗体	A/c
	急性散在性脊髄炎 (ADEM)		A/a
	急性出血性白質脳炎		B/c
	clinically isolated syndrome (CIS)	視神経炎	A/b
9-2. 灰白質の免疫性疾患			
	Rasmussen 症候群	細胞傷害性 T 細胞、GluR	A/c
	Bickerstaff 型脳神経炎	抗 GQ1b 抗体	A/b
	自己免疫性脳炎	NMDAR 脳炎、VGKC 複合体脳炎	A/c
	急性小脳失調症		A/a
	急性横断性脊髄炎		A/b
	spasmus nutans		B/c
	opsoclonus-myoclonus 症候群	神経芽細胞腫	A/b
	リウマチ熱	Sydenham 舞踏病	A/c
	溶連菌感染に伴う小児自己免疫性神経精神病 (PANDAS)		A/b
9-3. 末梢神経系の脱髄性疾患			
	Guillain-Barré 症候群	急性炎症性脱髄性多発ニューロパチー、AIDP	A/a
		急性運動・感覚性軸索ニューロパチー	A/a
		急性運動性軸索ニューロパチー	A/a
		Fisher 症候群	A/b
	慢性炎症性脱髄性多発神経根ニューロパチー	CIDP	B/c
	Bell 麻痺		A/a
9-4. 感染後の脳血管障害			
	水痘、帯状疱疹後の脳血管炎		A/a
	HIV 関連脳血管炎		B/c
9-5. 全身性血管炎に伴う脳血管障害			
	若年関節リウマチ	血管炎、多発ニューロパチー	B/c
	Behçet 病	血管炎、炎症性脱髄	B/c
	全身性エリテマトーデス		B/c
9-6. ウイルス感染後疲労症候群			
	慢性疲労症候群		B/c
9-7. 予防接種の神経系副作用			
	おたふくかぜワクチン	無菌性髄膜炎	A/c
	日本脳炎ワクチン		B/c
	ポリオワクチン		B/c
<b>10. 神経系の外傷・その他</b>			
10-1. 外傷			

	びまん性軸索損傷	MR 拡散強調画像	A/a
	脳脊液		A/a
	脳実質損傷		A/a
	硬膜外出血		A/a
	急性硬膜下血腫		A/a
	慢性硬膜下血腫		A/a
	くも膜下出血		A/a
	頭蓋骨骨折	線状骨折、頭蓋底骨折、陥凹骨折	A/a
	脊髄損傷		A/b
	末梢神経損傷		A/b
	虐待	揺さぶられっ子症候群	A/a
10- 2. その他			
	熱中症		A/a
	熱傷		A/b
<b>11. 中毒・栄養障害</b>			
11-1. 中毒			
	アルコール中毒	胎児性アルコール症候群	A/c
	一酸化炭素中毒		B/c
	水銀中毒		B/b
	鉛中毒		B/b
11-2. 薬物誘発性神経症状・薬物中毒			
	テオフィリン	—	A/b
	シクロスポリン	白質脳症 (reversible)	A/b
	タクロリムス	白質脳症 (reversible)	A/b
	メソトレキセート	白質脳症 (急性, 亜急性, 遅発性)	A/b
	ステロイド	ミオパチー	A/b
	ヒダントイン (フェニトイン)	胎児性ヒダントイン症候群	A/b
	バルプロ酸	胎児/バルプロ酸症候群	A/b
	フェノチアジン類	悪性症候群、遅発性ジストニア、麻痺性イレウス	A/b
	抗ドパミン薬 (リスペリドン)	悪性症候群、遅発性ジストニア	A/b
	選択的セロトニン再取り込み阻害薬	セロトニン症候群	A/b
	抗ヒスタミン薬		A/b
11-3. 毒素			
	ボツリヌス中毒	乳児ボツリヌス症	A/c
	銀杏中毒	ビタミン B6	A/c
<b>12. 脳腫瘍</b>			
12-1. 脳腫瘍			
	大脳 (テント上)	星細胞腫	A/b
		乏突起膠腫	B/c
		髄膜腫	B/c
		上皮腫	B/c
		脈絡叢乳頭腫	A/b
		頭蓋凹頭腫	A/b
		奇形腫	A/b
		胎腫 (ジャーミノーマ)	A/b
		下垂体腺腫	B/c
		視床下部内分泌腫	A/b
		神経節膠腫	A/c
		胚芽異形成性神経上皮腫瘍 (DNT)	A/c
	脳幹・小脳 (テント下)	髄芽腫	A/b
		星細胞腫	A/b
		上皮腫	A/b
		脳幹節膜腫瘍	A/b
		聴神経鞘腫	B/c
	その他	非定型奇形腫様/ラプドイド腫瘍 (AT/RT)	B/c
12-2. 脊髄腫瘍			
	髄内腫瘍	星細胞腫、上皮腫	B/c
	髄外硬膜内腫瘍	神経鞘腫	B/c
	硬膜外腫瘍		B/c
12-3. その他			
	脂肪腫、類上皮腫		A/b
	転移性腫瘍		B/c
	頭蓋骨腫瘍	ランゲルハンス細胞組織球症 (LCH)、神経芽腫骨転移	B/c
	(偽性脳腫瘍)	「19.2 二次性頭痛」に分類	A/b
	くも膜のう胞		A/a
<b>13. 脳血管障害</b>			

13-1. 閉塞性(虚血性)疾患		
もやもや病		A/a
新生児脳梗塞		A/b
(化膿性脳膜炎による血管炎)	「8-1. 脳膜炎」に分類	
(水痘後血管炎)	「9-4. 感染後の脳血管障害」に分類	
動脈瘤		A/b
血栓症	protein S 欠損症	A/b
	protein C 欠損症	A/b
	アンチトロンピン欠損症	A/b
	抗リン脂質抗体症候群	A/c
	先天性心疾患	A/c
(MELAS)	「4-13. ミトコンドリア異常症」に分類	
(先天性グルコシル化異常症)	「4-9. 糖鎖形成異常」に分類	
(ホモシスチン尿症)	「4-1. アミノ酸代謝異常」に分類	
(メチレンテトラヒドロ葉酸還元酵素欠損症)	「4-1. アミノ酸代謝異常」に分類	
13- 2. 出血性疾患(脳・脊髄出血)		
血小板減少症		A/b
血友病		A/b
ビタミンK 欠乏症		A/b
脳動脈瘤	Ehlers-Danlos 症候群	B/c
	Marfan 症候群	B/c
	感染性動脈瘤	B/c
血管奇形	動脈瘤奇形、海綿状血管腫、静脈性血管腫	A/b
13-3. その他		
Galen 大静脈瘤	新生児期うつ血性心不全、水頭症	A/c
静脈洞血栓症、静脈血栓症		B/c
14. てんかんおよびその他の発作性疾患		
14-1. 焦点てんかん症候群		
自然終息性(家族性)新生児てんかん		A/b
自然終息性(家族性)乳児てんかん		A/b
自然終息性家族性新生児乳児てんかん		A/b
中心側頭部棘波を示す自然終息性てんかん (SeLECTS)		A/a
自律神経発作を伴う自然終息性てんかん (SeLEAS)	Panayiotopoulos 症候群	A/a
小児後頭視覚てんかん	Gastaut type	A/a
光過敏性後頭葉てんかん (POLE)		A/a
多様な焦点を示す家族性焦点てんかん		B/c
家族性内側頭葉てんかん		B/c
聴覚症状を伴うてんかん		B/c
海馬硬化を伴う内側頭葉てんかん		A/a
14-2. 全般てんかん症候群		
乳児ミオクロニーてんかん		A/b
小児欠神てんかん (CAE)		A/a
若年欠神てんかん (JAE)		A/a
若年ミオクロニーてんかん (JME)		A/b
全般強直間代発作のみを示すてんかん (GTCA)		A/b
眼瞼ミオクロニーを伴うてんかん		A/b
ミオクロニー欠神発作を伴うてんかん		A/b
14-3. 全般焦点合併てんかん症候群		
素因性てんかん熱性けいれんプラス		A/b
読書誘発発作を伴うてんかん		B/c
14-4. 発達性てんかん性脳症または進行性神経学的退行を伴う症候群		
早期乳児発達性てんかん性脳症	大田原症候群	A/c
乳児てんかん性スバズム症候群		A/a
ドラベ症候群	乳児重症ミオクロニーてんかん	A/b
遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		A/c
ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		A/b
睡眠時徐波活性を示すてんかん性脳症	CSWS	A/b
Lennox-Gastaut 症候群		A/b
Landau-Kleffner 症候群	獲得性てんかん性失語	A/c
片側性けいれん・片麻痺・てんかん		A/c
発熱感染症関連てんかん症候群		A/c
Rasmussen 症候群	「9-2. 灰白質の免疫性疾患」に分類	
14-5. 視床下部過調重を伴うてんかん		
笑い発作		A/b
14-6. 焦点てんかん		
側頭葉てんかん		A/a
前頭葉てんかん		A/a
頭頂葉てんかん		B/a

	後頭葉てんかん		A/a
14-7. 特殊症候群	熱性けいれん(熱性発作)		A/a
	胃腸炎関連けいれん		A/a
	急性の代謝障害や中毒時に見られる発作		A/a
	ビタミンB6 依存性てんかん		A/b
14-8. てんかん薬物治療	全般起始発作、焦点起始発作のガイドライン		A/a
14-9. てんかん特殊治療	ケトン食療法		A/b
	迷走神経刺激療法		B/c
	てんかん外科治療		B/c
14-10. その他の発作疾患	憤怒けいれん		A/a
	失神	単純失神	A/a
		反射性失神	A/b
		心性失神 (Adams-Stokes 症候群)、QT 延長症候群、WPW 症候群	A/c
	夜驚症		A/a
	身震い発作		A/a
	心因性非てんかん発作		A/a
	びっくり病	hyperekplexia, startle 病	B/c
<b>15. 神経筋疾患</b>			
15-1. 運動ニューロン疾患	脊髄性筋萎縮症1型(SMA type1)	Werdnig-Hoffmann 病 (SMN1)	A/a
	脊髄性筋萎縮症2型(SMA type2)		A/b
	脊髄性筋萎縮症3型(SMA type3)	Kugelberg-Welander 病	A/b
15-2. 先天性ミオパチー	ネマリンミオパチー		A/b
	セントラルコア病		A/c
	ミニコア病		B/c
	ミオチューブラーミオパチー	悪性高熱	A/c
	中心核ミオパチー		A/c
	先天性筋線維型不均等症		B/c
15-3. 神経筋接合部疾患	重症筋無力症	眼筋型	A/a
		潜在性全身型	A/a
		全身型	A/a
	先天性筋無力症候群		B/a
15-4. 筋ジストロフィー	Duchenne 型筋ジストロフィー		A/a
	Becker 型筋ジストロフィー		A/a
	Emery-Dreifuss 型筋ジストロフィー		A/b
	顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー		A/b
	肢帯型筋ジストロフィー (LGMD)	常染色体顕性(優性)型 LGMD	A/b
		常染色体潜性(劣性)型 LGMD	A/b
	福山型先天性筋ジストロフィー		A/b
	Ulrich 型先天性筋ジストロフィー		B/c
	メロシク欠損型先天性筋ジストロフィー		B/c
	ラミン関連先天性筋ジストロフィー		B/c
15-5. 筋強直性疾患	筋強直性ジストロフィー	1型	A/a
		2型	A/a
	先天性筋強直性ジストロフィー		A/a
	先天性ミオトニー	Thomsen	B/c
		Becker	B/c
	先天性パラミオトニー		B/c
	Schwartz-Jampel 症候群		B/c
15-6. 炎症性筋疾患	若年性皮膚筋炎		A/b
	若年性多発筋炎		A/b
	ウイルス感染に伴う筋炎		A/b
15-7. 周期性四肢麻痺	低カリウム性周期性四肢麻痺		B/c
	高カリウム性周期性四肢麻痺		B/c
	Andersen-Tawil 症候群		B/c
15-8. その他の筋疾患			

	先天性多発性関節拘縮症		A/a
	横紋筋融解症		A/b
	圧挫症候群		B/c
	悪性高熱		A/c
<b>16. 脊髄疾患</b>			
16-1. 脊髄の奇形			
	(二分脊椎)	「3-1. 神経管閉鎖不全」に分類	
	繫留脊髄症候群		A/a
	(脊髄空洞症)	「3-1. 神経管閉鎖不全」に分類	
16-2. 脊髄の炎症			
	脊髄炎	急性横断性脊髄炎	B/b
	急性弛緩性脊髄炎		A/c
16-3. 脊髄の血行障害			
	脊髄梗塞		B/c
	脊髄血管の形成異常		B/c
<b>17. 神経発達障害、行動および情緒障害</b>			
17-1. 神経発達症			
	知的発達症/知的発達障害		A/a
	自閉スペクトラム症		A/a
	注意欠如・多動症		A/a
	限局性学習症		A/a
	発達性協調運動障害		A/a
	チック障害		A/a
17-2. 抑うつ障害群			
	抑うつ障害	持続性抑うつ障害、うつ病、重篤気分調節症など	A/b
17-3. 不安障害群			
	不安障害	分離不安障害、社交不安障害、全般性不安障害など	A/b
	選択性緘黙		A/a
	パニック障害		A/a
	不登校状態		A/a
17-4. 強迫性障害群			
	強迫性障害		A/a
17-5. 心的外傷およびストレス関連障害群			
	心的外傷後ストレス障害		A/a
17-6. 身体症状および関与症群			
	転換性障害		A/a
17-7. 食行動障害および摂食障害群			
	異食症		A/a
	神経性無食欲症		A/a
17-8. 排泄症群			
	遺尿症		A/a
	遺糞症		A/a
17-9. 秩序破壊的・衝動制御・遊玩症群			
	反抗挑戦性障害		A/a
	素行障害		A/b
<b>18. 睡眠障害</b>			
	睡眠時無呼吸症候群	閉塞性 中枢性	A/a A/a
	睡眠関連低換気障害	先天性中枢性肺泡低換気症候群	A/c
	中枢性過眠症	ナルコレプシー Kleine-Levin 症候群 睡眠不足症候群	A/a A/b A/a
	概日リズム睡眠・覚醒障害	睡眠覚醒相後退障害・前倒障害 social jet lag	A/b A/b
	睡眠随伴症	睡眠時遊行症、驚愕症 睡眠時遺尿症	A/a A/b
	睡眠関連運動障害	むずむず脚症候群 周期性四肢運動障害 睡眠時引きつけ	A/b A/b A/b
<b>19. 頭痛</b>			
19-1. 一次性頭痛			
	片頭痛		A/a
	緊張型頭痛		A/a
	群発頭痛およびその他の三叉神経・自律神経性頭痛		B/b
	その他の一次性頭痛		B/b
19-2. 二次性頭痛			

	頭頸部外傷・傷害による頭痛	外傷後頭蓋内血腫など	A/b
	頭頸部血管障害による頭痛	くも膜下出血など	B/b
	非血管性頭蓋内疾患による頭痛	脳腫瘍など	A/b
		特発性頭蓋内圧亢進症(偽性脳腫瘍)	A/b
	物質またはその代謝による頭痛	薬物過剰摂取など	B/b
	感染症による頭痛	髄膜炎など	A/a
	ホメオスタシスの障害による頭痛	起立性調節障害など	A/a
	頭蓋骨、頸、目、耳、鼻、副鼻腔、歯、口あるいはその他の顔面、頭蓋の構成組織の障害に起因する頭痛あるいは顔面痛	副鼻腔炎等	B/b
	精神疾患による頭痛	身体化障害など	A/b
<b>20. 自律神経障害</b>			
	起立性調節障害		A/a
	神経調節性失神		A/b
	家族性自律神経異常症(Riley-Day 症候群)		B/c
<b>21. 小児内科疾患に伴う神経障害</b>			
21-1. 腎疾患に伴う神経障害			
	水中毒		A/a
	高カリウム血症		A/b
	尿毒症性脳症		A/b
	高血圧性脳症		A/b
	慢性腎不全に伴う脳症		A/b
21-2. 肝疾患に伴う神経障害			
	早産児ビリルビン脳症(核黄疸)		A/b
	肝性脳症		A/c
21-3. 栄養に関係した神経障害			
	ビタミンA過剰症		B/c
	ビタミンA欠乏症	夜盲	B/c
	ビタミンB1欠乏症	脚気、Wernicke-Korsakoff 症候群	A/b
	(ビタミンB6欠乏症)	銀杏「11-3. 毒素」に分類	
	ビタミンE欠乏症		A/c
	ビオチン欠乏		A/b
	葉酸欠乏症		A/c
	亜鉛欠乏症		A/c
	セレン欠乏症		A/c
	カルニチン欠乏症		A/c

1994年9月	初版
2001年6月	改訂1版
2005年3月	改訂2版
2006年3月	改訂3版
2008年3月	改訂4版
2013年3月	改訂5版
2018年3月	改訂6版
2025年12月	改訂7版

〒162-0055 東京都新宿区余丁町8-16 ネオメディアトピア4F  
日本小児神経学会  
専門医委員会  
TEL. 03-3351-4125  
FAX. 03-3351-4067  
E-mail: senmoni@childneuro.jp  
<https://www.childneuro.jp/>